

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-2-3  
文化芸術の振興

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 文化国際課文化振興室長 柳樂ひとみ 電話番号 0852-22-6776

事務事業の名称	美術品等取得	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	優れた美術に触れる機会を提供する。
事業概要	・県民に優れた芸術文化に触れる機会を提供するため、美術品等収集方針に基づき県立美術館及び石見美術館の美術品及び美術資料等を取得する。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 美術品取得点数	目標値				15.0	15.0	点
	式・定義 取得点数	取組目標値						
		実績値	163.0	107.0	2,254.0			
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	374	488
うち一般財源(千円)	374	488

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- ・美術品等取得基金(定額基金)の現金残高は25百万円しかなく、平成22年度以降の購入は無し
- ・森英恵ファッション文化財団寄付金を活用し、平成29年度は服飾(ドレス)2点を購入
- ・近年は寄贈による取得に頼っているが、学芸員の人脈や美術館の姿勢等に対し高評価を受け、平成29年度は質・量ともに過去最大級の寄贈を受けた。

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・これまで築いた学芸員の人脈や美術館の姿勢を評価され、平成29年度は過去最大級の寄贈を受けた。
- ・特に浮世絵においては国内有数のコレクションを保有する施設となり、今後、県民をはじめ県外や外国からの来館者に鑑賞の機会を提供できる。
- ・観覧料収入の増加により基金の現金残高を増やし、今後の美術品購入に繋がる制度を創設した。

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

### ①困っている「状況」

当面はファッション関係を除くと、購入による美術品取得が困難

### ②困っている状況が発生している「原因」

- ・美術品等の購入財源が不足(美術品等取得基金の現金残高が25百万円と僅少)
- ・制度は創設したが、効果が出るのは平成32年度以降
- ・実際に基金残高をどれだけ増やせるかは観覧料収入次第

### ③原因を解消するための「課題」

- ・美術品購入に向け創設した制度を活かし、基金の現金残高を増やせるよう、観覧料収入の増加に向けた取組が必要
- ・寄贈による美術品の取得

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・観覧料収入を増やすことができる企画(展覧会、イベント等)の検討
- ・購入による美術品取得が可能であること意識共有を図り、それに向けた取組の検討や美術品流通の情報収集等を実施
- ・学芸員の人脈を活かした寄贈に結び付けられるよう、関係性の継続と新たな関係性づくり
- ・審査会で美術品等の収集の適否、評価を受けることにより、収蔵品として適正なものを円滑に収集